

- 2) Albanese SA, et al : Knee extensor mechanics after subtotal excision of the patella. Clin Orthop 1992 ; 285 : 217-222.
- 3) Campanacci M, et al : Autogenous patella as replacement for a resected femoral or tibial condyle. A report on 19 cases. J Bone Joint Surg 1985 ; 67B : 557-563.
- 4) Günal İ, et al : Patellectomy : An overview with reconstructive procedures. Clin Orthop 2001 ; 398 : 74-78.
- 5) Outerbridge HK, et al : The use of a lateral patellar autologous graft for the repair of a large osteochondral defect in the knee. J Bone Joint Surg 1995 ; 77A : 65-72.
- 6) Yercan HS, et al : The treatment of patellofemoral osteoarthritis with partial lateral facetectomy. Clin Orthop 2005 ; 436 : 14-19.

ほっと ぷらざ

西暦と元号

外来でカルテや診断書を書いていて気がついた。以前は昭和〇〇年という元号表記が普通であったが、最近は199〇年、200〇年という西暦表記をよく見るようになった。カルテに日付を押すスタンプが診察室によって‘06.2.3と18.2.3とがあったりする。どうも若いスタッフが西暦使用を好むようだ。個人的には平成〇〇生まれという方が判りやすいが、元号表記を使わないのは、平成になってからの現象の様。最近の学会発表でも西暦表示が多くなった。しかし、例えば大学卒業は1979年 or 昭和54年とどっちがわかり易いか？冬季札幌五輪は何年？人によって様々だと思う。天皇継承問題で世論が沸きつつあるが、なぜ元号を使うのか？の疑問に明確な答えはない。西暦と元号の併用は日本人特有の使い分け、fuzzyな感覚によるものかもしれない。国際学会で発表するときに Heisei18と言って通じるわけではないが、保険会社の診断書には最後の日付欄にあらかじめ平成の印字がなされているので、ゴム印は18.2.3の方が便利だ。ただし外資系の診断書は別。

市立札幌病院 佐久間 隆